

秋田大学学生海外派遣支援事業 帰国報告書

記入日：2016年2月8日

氏名：荒川 柊斗

所属：教育文化学部 国際文化課程 国際コミュニケーション選修 三年次

派遣先大学名：ルーマニア国立ブカレスト大学

在籍身分：交換留学生

派遣期間：2015.2-2016.2

渡航年月日：2015年2月11日

帰国年月日：2016年2月7日

○派遣先大学における授業などの履修状況

授業名	履修期間	講義時間（週）	取得単位数
Texte（言語運用）	2015.2-2016.6	火、木 週二コマ	4
Texte（言語運用）	2015.2-2015.6	水 週二コマ	4
Volleyball	2015.2-2015.6	月 週三コマ	6
American literature	2015.10-2016.1	月 週二コマ	4
Texte（言語運用）	2015.10-2016.1	月 週一コマ	2
Korean language	2015.10-2016.1	火、木 週三コマ	6
日本語	2015.10-2016.1	水 週一コマ	2

○研究・学習概要及び今後の学習計画

第二言語として英語を学ぶという立場は、日本・ルーマニア間で変わりはない。しかし、ルーマニアでの外国語学習のレベルの高さ、生徒の成熟度合いにいつも圧倒されていた。言語を学ぶということ、そして留学したいという情熱を皆が持ち合わせ、チャンスを勝ち取るために懸命に学習する姿を目の当たりにし、自らに対する恥をも感じた。日本人に馴染みのないこの国に触れ、27年前の革命から急激に変わりゆくこの国で過ごし、自らの内に愛国心のようなものも芽生えたことも確かである。この留学を終えることが決してゴールではないことは重々承知している。この留学全体を今後の学習へのきっかけ、自らの目指すゴールへの一課程と捉え、日本にいなながらも英語で戦えるような力をつけるために学内外、共々積極的に活動していきたい。4年次では卒業論文への学習が主になるが、ルーマニア生活で強く感じた人々の愛国心について、日本でのケースを主にしながら迫っていきたい。

○生活面について

日本のようにいかないことはある程度は予想していたが、あそこまで苦勞するとは思っていなかった。留学時期終盤には、問題があることを言わないことを責められたが、まず言っても返信がない。対応を待っているよりも自分で動いたほうが断然早い。また、問題を解決するようにルーマニア人の学生を紹介されても彼らも留学生の問題は管轄外なのである。忙しい先生が、解決策のない学生に申し付け、ただこちらもその学生と共に苦勞するだけだった。

秋田のようにチューター制度のないブカレスト大学では、学生は 100%ボランティアで手伝ってくれる。そのことを加味するとなかなか気軽に頼むことは気が引ける。時間が経過し仲が深まれば、ためらいなく助けを請うことができる。しかし、ほとんどの問題は留学初期に起こるので、自分自身の新学期の準備に追われているルーマニア人学生にそのような荷を負わせることはあまりにも申し訳ない。運よく、日本大使館の職員の方で、二年前の交換留学生だった方（朝子さん）に会うことができた。



↑朝子さん、2013 年度留学生 Alina とスケートへ

かなり助けてもらった。彼女の駐在期間と自らの留学期間が重なっていて本当に幸運だった。後期（秋学期）から二人の大学院生がチューターになったが、事情を聴くと、否応もなく任命されたということだった。二人は日本での留学経験もあり、その前からいろいろ交流することが多かったので、彼女たちのことはよく知っていた。ただ、彼女らが、個人的な仕事に勉強に一年生の指導にと忙しいことはわかっていた。なぜ初期ではなく今なのか、ということ強く思った。次の学生からはきちんと交換留学生を扱うモデルが整っていることを願う。あまりにもその場しのぎの対応ばかりで、いつも翻弄されたというのが 2015-2016 時期の留学生生活であった。ルーマニア人お決まりのジョークである。

—” Shuto, you know? Now it’ s 2015. Here, it’ s 1965, OK?” —

Dr. Praschiv

現地で親知らずを抜いた。大学生がぶつかる親知らずの問題。海外で歯の治療というのは最も避けたいことだ。実は留学二日前、親知らずが原因の痛みがあり、歯を削ってからルーマニアへ発った。その歯が成長してきていたのである。友人メラには幾度と助けられた。メラの近くに住む歯医者を紹介してもらった。Dr. Parashiv。なにかとネガティブなイメージが強いルーマニア。ただ歯医者腕はヨーロッパ随一だ。その上、彼はテレビにも出るような名医だ。Dr. Praschiv は私のために休みの土曜にクリニックを開けてくれた。麻酔が効かず、六本も注射を打った。大きな歯を抜き、飲み薬を処方された。アレルギーなど縁のなかった私が、全身みみずばれになった。さすがに笑ってしまった。幸運にも薬なしでも術後は痛みもなく、食べ物も普通に食べることができた。レントゲン撮影時、医師の説明をメラが訳してくれた。目の前の機材を見た。” made in Japan” 日本語と英語の説明書きである。評判の高いルーマニアの歯科医、そして日本製の医療機器。全幅の信頼と共にほころぶ歯痛持ちがそこにいた。

ルーマニア。ここはヨーロッパ。私は武者のようにヨーロッパ中を駆け巡った。ルーマニア国内はもちろん、東欧を中心に旅をした。西欧は日本からの直行便も多い。体力が落ちてから行くことにしている。私はまだ 21 歳。体力と気力だけはある。今のうちに東欧コンプリート。怒涛のパスポートスタンプラリーである。スロベニア旅行中、クレジットカードが止まった。持

ち金は 10 ユーロ以下。旅行の残り日数は 10 日以上。そして、本日金曜日。本日中に手続きしなければ、暗黒の土日がやってくる。スロベニア領事館へダッシュ。首都リュブリャナは小さくまとまっている街で、15 分程で到着。この世の終わりとはばかりの顔で「すみません…」ここでまたしてもルーマニア大使館の朝子さんに助けられる。朝子さんには感謝しても感謝しきれない。その後のクロアチアは快晴の空に反して、気持ちはブルー。朝子さんはもちろん、スロベニア領事館、ルーマニア大使館、そしてホステルで知り合い「若人への投資よ。」とフツと笑ってすべてのご飯をごちそうしてくれた日本人、詠子・レーガンさん、たくさんの人の助けを請い、ブカレストへの帰路についたのである。

—” You’ re amazing.” —



大学生活の中で、縁あってフィットネスの分野に触れる機会が多かった。ブカレストでもすぐにジムを探した。一か月特に節約しなくても五万円程度で事足りるブカレストで、一か月一万円以上するジムに通った。ルーマニアの富裕層が通う施設だった。インストラクターも一流の人たちばかりだ。勇気を出して一人の東洋人がプログラムに参加した。日本での経験（と私のポテンシャル）は十分に発揮された。市内のイベントはも

ちろん、黒海沿岸で行われるイベントにも参加させてもらった。日本以上にマッチョが優遇される社会である。頑張ったが遺伝子レベルであるの体型を手に入れるのは無理なのだろう。それでもプログラムに参加すれば、私はかなり優秀だった。ノルウェー人のインストラクターに出会った。ヨーロッパ中のイベントに招待されるほどの有名なインストラクターである。すべてに圧倒された。47 歳でなお現役、がんを克服、話をしても頭がいいこともよく分かった。彼は 9 月に日本のイベントに招待されている。彼との再会に心を弾ませる。題目。彼に言われた言葉を、そっくりそのまま彼に返してしまったのである。

○その他留学全般にわたる感想

「本当に大変だった。ただ、行ったことは後悔していない。」
精神的に一步前進。生え際は一步後退。とんだ代償だ。諸行無常の響きあり。
どう乗り越えるか、どう受け入れるか、どう対処するか、どう伝えるか。
人間としての受け皿が大きくなったのではないだろうか。

↓秋田からの友人と研修旅行でルーマニアの田舎を訪れる



↓街中に国旗が揺らめく



↓寮から徒歩5分ほどの景色



↓花見と聞いて行ったら、花がなかった。



↓ギリシャ・サントリーニ島の絶景

